

モルセレーター、閉鎖バッグ、細切除去装置、子宮筋腫1

閉鎖バッグを利用した細切除去装置を用いた手術法は適切な方法である。パワーを制御し子宮の摘出組織を細切除去する方法はオープンパワーの細切除去装置に伴うリスクを低下させ低侵襲性手術のメリットを高める有益な方法である。

Contained Power Morcellation Within an Insufflated Isolation Bag

Sarah L. Cohen, Jon I. Einarsson, Karen C. Wang, Douglas Brown, David Boruta, Stacey A. Scheib, Amanda N. Fader, Tony Shibley

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):491-497

【文献番号】 g07300 (腹腔鏡下手術、ミニラパロトミー、ロボット手術)

双胎妊娠、一羊膜双胎、モニタリング、新生児死亡、胎児死亡、妊産婦管理3

一羊膜双胎妊娠における胎児のリスクは妊娠32週4日の時点で出産後の非呼吸器系の合併症のリスクを上回った。妊娠26～28週以降、胎児を慎重に監視し妊娠33週で分娩を試みた場合、胎児および新生児死亡のリスクは低いレベルに留まった。

Prenatal Management of Monoamniotic Twin Pregnancies

Tim Van Mieghem, Roel De Heus, Liesbeth Lewi, Philipp Klaritsch, Martina Kollmann, David Baud, Yvan Vial, Prakesh S. Shah, Angela C. Ranzini, Lauren Mason, Luigi Raio, Regine Lachat, Jon Barrett, Vesal Khorsand, Rory Windrim, Greg Ryan

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):498-506

【文献番号】 o07100 (双胎妊娠、双胎児間輸血症候群、胎児発育不均衡)

新生児脳症、胎児心拍モニタリング、低体温療法、予測精度7

分娩前1時間の胎児心拍モニタリングの異常から出産後6時間以内に全身低体温療法が必要な新生児低酸素性虚血性脳症を特定しようとしても、その予測能は不良である。

Diagnostic Accuracy of Fetal Heart Rate Monitoring in the Identification of Neonatal Encephalopathy

Ernest M. Graham, Rebecca R. Adami, Stephanie L. McKenney, Jacky M. Jennings, Irina Burd, Frank R. Witter

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):507-513

【文献番号】 o04600 (胎児心拍モニタリング、血液ガス、血流動態、胎児切迫仮死、オキシメトリー)

PPROM、切迫早産、抗生物質療法、azithromycin、ampicillin、erythromycin 10

PPROMを認めた患者においてerythromycinの代わりにazithromycinを用いたとしても出産までの潜伏期やその他の母児に関わる臨床結果に差異は認められなかった。

A Retrospective Comparison of Antibiotic Regimens for Preterm Premature Rupture of Membranes

Rebecca C. Pierson, Sashana S. Gordon, David M. Haas

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):515-519

【文献番号】 o04100 (前期破水、早期破水、早産、羊水感染)

頸管長、スクリーニング、早産、リスク因子12

自然早産の既往を有していない女性を対象に一律に経膈超音波検査による頸管長のスクリーニングを施行したところ、頸管長が20mm以下の例の発現頻度は1.1%という結果であった。頸管長が25mm未満の女性の43%においてプロトコルに沿った処置からの逸脱が認められた。自然早産の発現頻度は経膈超音波によるスクリーニングを受けた群とスクリーニングを受けなかった群において同様な結果であった。

A Universal Transvaginal Cervical Length Screening Program for Preterm Birth Prevention

Kelly M. Orzechowski, Rupsa C. Boelig, Jason K. Baxter, Vincenzo Berghella

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):520-525

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

妊婦、うつ病、薬物療法、系統的レビュー、有用性、metaanalysis 14

妊婦あるいは褥婦において抗うつ剤を使用した場合の有益性と有害性を比較した研究結果から考え抗うつ剤による治療をinformed decisionの下に認めることを支持する十分なデータは得られていない。抑うつ発現頻度を考慮した場合、このような研究間のギャップを埋めることがきわめて重要である。

Depression Drug Treatment Outcomes in Pregnancy and the Postpartum Period: A Systematic Review and Meta-analysis

Marian S. McDonagh, Annette Matthews, Carrie Phillipi, Jillian Romm, Kim Peterson, Sujata Thakurta, Jeanne-Marie Guise

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):526-534

【文献番号】 o12210 (妊産婦管理、高齢妊娠、若年妊娠、肥満、糖尿病、運動、抑うつ)

全身性炎症反応症候群、診断基準、妊婦、褥婦、敗血症16

現在用いられている全身性炎症性反応症候群（systemic inflammatory response syndrome、SIRS）の診断基準は妊娠中および産褥早期における正常な身体的なパラメーターとしばしばオーバーラップしており母体の敗血症を診断する上で代替となる新たな基準を作成する必要がある。

Maternal Physiologic Parameters in Relationship to Systemic Inflammatory Response Syndrome Criteria: A Systematic Review and Meta-analysis

Melissa E. Bauer, Samuel T. Bauer, Baskar Rajala, Mark P. MacEachern, Linda S. Polley, David Childers, David M. Aronoff
Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):535-541

【文献番号】 o12301 (産科関連事項)

先天奇形腫、腹壁破裂、分娩週数、医療費、孤立性奇形18

腹壁破裂を有するもその他の大奇形を有しない妊娠例において、早期正期産あるいは後期正期産での出産は37週未満の早産と比較し周産期の臨床結果は改善し医療費も軽減した。

Perinatal Outcomes and Hospital Costs in Gastroschisis Based on Gestational Age at Delivery

Mary Ashley Cain, Jason L. Salemi, Jean Paul Tanner, Mulubrhan F. Mogos, Russell S. Kirby, Valerie E. Whiteman, Hamisu M. Salihu

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):543-550

【文献番号】 o09100 (先天奇形、先天性疾患、新生児スクリーニング、リスク因子、放射線障害)

分娩後出血、B-Lynch縫合、産科的合併症、癒着胎盤、前置胎盤、弛緩、早産、SGA20

B-Lynch縫合を試みたとしても、その後の妊娠において胎盤の異常がかかわるネガティブな産科的臨床的問題のリスクの上昇とは相関しない。

Subsequent Pregnancy Outcome After B-Lynch Suture Placement

Alison D. Cowan, Emily S. Miller, William A. Grobman

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):558-561

【文献番号】 o05200 (産科ショック、子宮復古不全、分娩後出血、貧血、子宮動脈塞栓術、止血法)

妊娠糖尿病、分娩後体重コントロール、インターネット、ライフスタイル22

最近妊娠糖尿病と診断された女性においてウェブを利用したライフスタイルの変更を求めるプログラムを実施したところ、分娩後の体重の停滞を軽減させることに成功した。

A Web-Based Lifestyle Intervention for Women With Recent Gestational Diabetes Mellitus: A Randomized Controlled Trial

Jacinda M. Nicklas, Chloe A. Zera, Lucinda J. England, Bernard A. Rosner, Edward Horton, Sue E. Levkoff, Ellen W. Seely

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):563-570

【文献番号】 o03100 (妊娠糖尿病、妊婦管理)

妊娠糖尿病、診断基準、国際糖尿病妊娠学会基準、Carpenter-Coustancriteria23

IADPSG criteria に従って妊娠糖尿病と診断された女性群ではコントロール群よりも胎児発育のレベルは高く、Carpenter-Coustan criteria に従って妊娠糖尿病と診断された女性群と比較し生下時体重は上昇するという結果が得られた。

Perinatal Outcomes Associated With the Diagnosis of Gestational Diabetes Made by The International Association of the Diabetes and Pregnancy Study Groups Criteria

John K. Ethridge Jr, Patrick M. Catalano, Thaddeus P. Waters

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):571-578

【文献番号】 o03100 (妊娠糖尿病、妊婦管理)

妊娠、女性保健、体重減少、生活習慣27

妊娠を心掛けていない女性よりも妊娠を望んでいる女性は非健康的な危険を伴う体重減少を試みるものが多いという調査結果が得られた。

Nutritional and Weight Management Behaviors in Low-Income Women Trying to Conceive

Abbey B. Berenson, Ali M. Pohlmeier, Tabassum H. Laz, Mahbubur Rahman, Christine J. McGrath

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):579-584

【文献番号】 r08200 (妊孕性、癌治療、加齢、生活習慣、嗜好品、肥満、環境因子、代替療法)

膣式子宮摘出術、良性疾患、EBM29

良性婦人科疾患の治療に膣式子宮摘出術を活用すべきであるとする根拠が示されている。膣式子宮摘出術に対するレジデントの教育を改善し、臨床婦人科医との協力を進め、膣式子宮摘出術に対する意識を高めることによって、多くの患者が子宮摘出術によってメリットが得られるのではないかとと思われる。

Considerations to Improve the Evidence-Based Use of Vaginal Hysterectomy in Benign Gynecology

Michael Moen, Andrew Walter, Oz Harmanli, Jeffrey Cornella, Mikio Nihira, Rajiv Gala, Carl Zimmerman, Holly E. Richter, for the Society of Gynecologic Surgeons Education Committee

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):585-588

【文献番号】 g07600 (手術関連事項)

子宮摘出術、骨盤膿瘍、止血剤、gelatin-thrombinmatrix 製剤30

子宮摘出術に伴う骨盤膿瘍は止血に用いられるgelatin-thrombin matrix 製剤と相関するという結果が得られた。これらの製剤は出血のコントロールには有用であるが、安易な使用はリスクを伴うことを認識しておく必要がある。

Association Between Gelatin-Thrombin Matrix Use and Abscesses in Women Undergoing Pelvic Surgery

Charles K. Anderson, Erin Medlin, Amber Fontenot Ferriss, Jeanelle Sheeder, Susan Davidson, Ronald Gibbs, Kian Behbakht, Saketh R. Guntupalli

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):589-595

【文献番号】 g07520 (婦人科手術、術後合併症、術後癒着、術中合併症)

卵管不妊手術、卵巣癌、卵管切除術33

不妊手術の方法には卵管閉鎖術、卵管切除術および経頸管的避妊手術などがある。今日、漿液性腺癌は卵管が起源となるとする根拠が示され卵管切除が勧められる傾向にある。避妊手術の約半数は分娩後に行われ年間5万例にも達しその頻度は全分娩の8～9%を占めている。卵管の閉鎖に当たってはシリコンリング法、クリップ法、バイポーラ凝固法などが試みられている。子宮鏡下避妊手術は腹腔鏡下手術と比較し侵襲性は少ない代替法となる可能性がある。腹腔鏡下手術や腹式手術を回避しなければならないような女性には経頸管的避妊手術が適している。最近、漿液性腺癌が卵管から発生するということが知られるようになり卵管切除術に関心がもたれている。両側の卵管避妊手術は卵巣癌の発現に予防的に作用することが明らかとなった。卵管結紮後に類子宮内膜癌と漿液性上皮腫瘍の発生が低下したと報告されている。卵管切除術後に漿液性卵巣癌あるいは原発性腹膜癌のリスクは手術を受けていない女性と比較し60%以上も減少した。卵管切除術と卵巣癌との関係が明らかとなり、永久的不妊手術のアプローチも変化すると思われる。

Female Tubal Sterilization: The Time Has Come to Routinely Consider Removal

Mitchell D. Creinin, Nikki Zite

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):596-599

【文献番号】 r12200 (避妊、経口避妊薬、妊娠中絶、IUD、IUS、人口問題、リスク因子、スクリーニング)

静脈血栓症、ホルモン性避妊、血栓形成傾向、factorV Leiden mutation35

複合的ホルモン性避妊法を用いている女性が、factorV Leiden mutationのような血栓形成に関わる遺伝子の変異を有している場合は静脈血栓塞栓症のリスクは上昇するという結果が得られた。遺伝的な血栓形成に関わる遺伝子の変異を有している女性においては、medroxyprogesteroneacetateの注射剤以外のprogestogen単独の避妊法が最も血栓形成のリスクが低いホルモン性避妊法となるのではないかとと思われる。

Association of Venous Thromboembolism With Hormonal Contraception and Thrombophilic Genotypes

Annica Bergendal, Ingemar Persson, Jacob Odeberg, Anders Sundstrom, Margareta Holmstrom, Sam Schulman, Ola Bjorgell, Helle Kieler

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):600-609

【文献番号】 r12200 (避妊、経口避妊薬、妊娠中絶、IUD、IUS、人口問題、リスク因子、スクリーニング)

PCOS、診断基準、臨床症状、ガイドライン、リスク因子39

PCOSに関わる最近の6件の論文をレビューした。論文1ではPCOSの診断のためにtestosteroneを測定する際にtandem mass spectrometryは精度が高くレベルの低い患者の診断にも有用で臨床の場で大量処理もできると述べられている。論文2ではIUIにおける臨床的妊娠率と生児出生率はletrozole群においてclomiphene群よりも有意に高いと述べられている。論文3ではRotterdam criteriaに従ったPCOSの診断においてAMHは卵巣の形態の代替法となり、AMHのカットオフ値を4.7ng/mL超とすることでPCOSの予測感度は82.8%であったと述べられている。

論文4ではPCOS患者にatorvastatinの投与でインシュリン感受性は低下し、インシュリンのレベルは上昇したと述べられている。statin療法を受けたPCOSの患者ではインシュリン抵抗性、耐糖能、2型糖尿病のチェックが必要である。論文5では思春期の女性におけるPCOSの診断基準が示されていないため診断を難しくしており、思春期の女兒におけるPCOSの診断にはRotterdam criteriaの3つのすべてを満たす必要があると述べられている。論文6では内分泌学会はPCOSの診断基準のガイドラインを発表しPCOSのケアに当たる医師にとって有用な診断基準となっていると述べられている。

What Is New in Polycystic Ovary Syndrome?: Best Articles From the Past Year

Keith A. Hansen

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):630-632

【文献番号】 r07100 (PCOS、PCO、インシュリン抵抗性、高アンドロゲン症、ovarian drilling)

妊娠、インフルエンザワクチン、委員会報告、CDC、予防接種諮問委員会、ガイドライン42

CDCとACOGは、すべての成人は毎年インフルエンザワクチンを受けるように勧告している。2010年以来、妊婦におけるインフルエンザワクチンの接種率は上昇しているが、さらに改善する必要がある。妊娠中に入院した場合、特に妊娠第3半期では入院期間が延長するという調査結果が報告されている。妊婦に不活性型インフルエンザワクチンの接種は可能であるが、弱毒型インフルエンザワクチンは勧めることはできない。thimerosalを含有するワクチンが見にネガティブな影響を与えるとする科学的根拠は示されていない。3価あるいは4価のワクチンも妊娠中に使用してもよいと考えられている。母親がインフルエンザワクチンを受けている児においてはインフルエンザの罹患率が低い。生後6か月未満の児へのワクチンの接種は承認されていない。HealthyPeople 2020の目標では妊婦の80%がワクチンの接種を受けることを目標としている。

Committee Opinion:Influenza Vaccination During Pregnancy

Obstet Gynecol. 2014 Sep;124(3):648-651

【文献番号】 o12200 (妊娠、免疫、感染、生体防御、ワクチン)